

「2024年 北海道花紀行」

2. 赤岳 チシマツガザクラを求めて

○ 令和6年(2024年)7月31日(水) 晴れ

層雲峡から銀泉台へ入り、チシマツガザクラを探して赤岳に登る

4時半起床。隣のベッドのおじさんはいない。もう出かけたのかな？

歯を磨き顔を洗ってから、誰もいない食堂で一人、サンドイッチと牛乳の朝食を摂る。

三菱ekクロスに山の荷物を積み込み、5時半 銀泉台へ向けて出発した。あたりは一面薄い霧に包まれるが、明るくて見通しは良い。この明るい霧は天気良くなる前兆だ。大雪湖の樹海ダムを抜けるとすぐ国道を右に、銀泉台への林道に入る。

ここから標高1500mの銀泉台までは約15kmあり、砂利道だがよく整備された長い林道だ。まだ朝早いので、車は全く走っていない。マイペースで車を走らせた。6時過ぎに銀泉台に到着、広い駐車場にはすでに10台近くの車が止まっている。山へ登る人はみんな朝が早いな！



早朝の銀泉台駐車場



登山者名簿に記入して出発

登山準備を整えて6時半に出発。登山者名簿に記入して広い林道を登山口まで数100m歩く。辺りは薄い霧がかかっているが天気は良さそうだ。気温もかなり高くなり暑くなってきた。道端にはコバノイチヤクソウやミヤマタニタデなどの花が咲いている。



コバノイチヤクソウ



今日ここに来るまで、伊勢原は猛暑続きで熱中症警戒アラートが毎日出ているので、殆ど外出せず、ずっと家の中で過ごしていた。毎日「北海道行きのため、トレーニングをしなければ、」と思いつつ何もしてこなかった。

まさにそれが影響したのか、歩きだしたら何か足が重い息がはずむ。20分くらい林道を歩いたら、大汗をかいて「赤岳登山口」にたどり着いた。

「あまり調子が良くないな、赤岳山頂までは無理かも知れないな」と思いながら、暑いので着ていた長袖を脱いだ。

ここからが登山道、急坂の登りが始まる。まずウメバチソウが満開で迎えてくれた。ちょうど時期なのだろう、こんなにウメバチソウがあったのか！と驚くほど、道の両側に延々と咲き続けた。さすがに赤岳は花の山だけあって、そのほかにタカネトウウチソウ、ヨツバシオガマ、ハイオトギリ、エゾウサギギク、ミヤマアキノキリンソウ、エゾヒメクワガタ、ミヤマサワアザミ、ミヤマリンドウなどが次から次から顔を出して励ましてくれる。つらい登りも花の写真を撮りながらのんびりと楽しみながら歩けた。



ウメバチソウ



タカネトウウチソウ



ハイオトギリ



ヨツバシオガマ



エゾヒメクワガタ



目指すは「駒草平」に咲くチシマツガザクラだ。コースタイムだと約2時間。元気ならどおってことない距離だが、今日はかなりつらい。行けども行けども駒草平に着かない。何とか「第一花園」に着いたが、花は何もない。今年は花が早いと言っていた、もう終わっているのか。いやな予感がする。空は霧が晴れて青空が出てきた。とにかく「駒草平」へ行こうと、先へ進んだ。相変わらずいろいろな花が咲く楽しい登山道を2時間近く登って、やっと「駒草平」に出た。



その名のとおりコマクサが一面に咲いていて、イワブクロ、エゾコザクラ、アオノツガザクラなどが咲いているお花畑だ。目的のチシマツガザクラは？あたりを見渡したが、それらしい葉の群落はあるが、花は見当たらない。



コマクサ群落



さらに良く探すと、ポツポツと花が見つかったが、ほとんどが赤い実（さく果）をつけている。花が終わってもう実になっているのだ！ 遅かったか！ 疲れがドッと出て、しばらく腰を落として休んだ。どうしよう。



赤シマツガザクラの実

もっと上へ行けば、花が咲いているかもしれない（高度が上がって気温が下がるから花の時期が遅くなる）と考え、赤岳山頂を目指してさらに登ることにした。しかしここからが岩場で、岩だらけの急坂が続く。疲れを癒してくれる花も咲いていない。天気は良くなり夏の日差しが暑く照りつける。第三雪渓を右手に見るはずだが、雪の痕跡が無い。確かに今年は雪解けが早くて、もう雪渓も消え失せたらしい。暑い岩場の急版を一步一步足を運ぶが、かなり疲れて、数歩歩いては一休み、足もガクガクになってきた。上を見上げて大きな岩を目印に



「あそこまで登って一休み」と登りと休憩の繰り返しになった。何回繰り返したのだろうか。やっと赤岳の山頂が見えてきたところで、上に大きな岩が見えた。「よしあそこまで頑張ろう」と力を振り絞り、足をひきずりながら登ってやっと岩までたどり着いた。

時計を見ると10時前だ。赤岳の山頂が見え「銀泉台へ3.5km 赤岳へ0.8km」の標識が立っていた。やれやれ疲れた、岩の陰に腰を下ろして、足を伸ばした。朝早かったし、



かなり登ってきて腹も減ったので、天気の良いし、眺めの良いここで昼飯にした。

もうみんな私を抜いて登っていったし、これから登ってくる人も殆ど無く、静かな絶景を独り占めして弁当を食べた。



一息ついて絶景を見渡しながらか、後ろの岩陰をふと見ると、何やらかわいい花が沢山咲いている。おいおい！ なんだ！ チシマツガザクラが咲いているぞ！ 飛び起きて近づいて見ると間違いなくチシマツガザクラの小さな群落の花をいっぱい咲かせて微笑んでいる。

何という偶然、何という幸運だろうか！ 早速カメラを取り出して、ひざまずき、腹這いになり、ひっくり返りながら、小一時間、思う存分写真を撮った。



現在 10 時半、さてどうするか？ 天気は良いし、まだ時間が早いし赤岳山頂まで十分に
行ってこられる。でも赤岳は何回も登っているし、今回の目的・チシマツガザクラの写真は
十分撮れたし、体力の減退を認識したし、山頂を踏む必要をあまり感じないな。安全第一、
無理をせずここで引き返すことに決め、荷物をまとめて、登ってきた道を引き返した。

天気は良いし、登りながら見てきた花いっぱい登山道を、花を楽しみながら、
写真を撮りながら、のんびりと下った。



エゾコザクラ群落



エゾツツジ



イワギキョウ



エゾウサギギク



コマクサ



ミヤマリンドウ



イワブクロ



お花畑

13 時前に銀泉台の駐車場に無事到着した。
まだ早いので、みんな山から下りて来ていないのだろう、沢山の車が止まっていた。

私は林道が混まないうちに走り抜きたいので、荷物を車にしまうとすぐに層雲峡へ向けて車を走らせた。予想通り国道に出るまで15kmの林道では、1台の車にも会うことなく、のんびりと走ることが出来た。

国道に出てすぐにある、国土交通省防災ステーション（大雪プラザ273）（赤岳の帰りにはいつも寄っている）に車を止め、手を洗い顔を洗って汗を流し、砂ほこりまみれの車を水洗いして、帰途についた。



途中層雲峡に入ってから「流星の滝」という案内の看板が目に入ったので、寄り道してみた。層雲峡の断崖のてっぺんから流れ落ちる、結構見ごたえのある滝だった。今までなん10回も来ている層雲峡だが、流星の滝は初めてだ。



ホステルに15時前に到着。層雲峡は良く晴れていて、気温は25°Cで涼しい。部屋での荷物の整理もそこそこに、まず今日の汗を流して疲れを癒すために風呂だ！

今日はホステルの方の勧めもあり、いつもの朝陽館ではなく、対面のホテル大雪に行ってみた。ホステルの割引券で朝陽館と同額の800円。朝陽館に比べて、門構えからフロント、館内の様子に格式が感じられ立派なホテルだ。風呂「大雪の湯」は7階にあり、展望風呂で露天風呂もある。早いからまだ誰も入っていない。素晴らしい展望風呂と露天風呂を独り占めして、ゆっくり今日の疲れを癒した。今まで10回以上も来ている層雲峡だが、いつも風呂は朝陽館だった。今年で最後の層雲峡になるだろうが、最後にホテル大雪の風呂に入ることが出来て良かった。

夜はホステルの特製カレーの夕食。なかなか旨かったし、チューハイ氷結が喉に沁みた。

ほろ酔いで、赤岳の疲れもあり、チシマツガザクラに会えた満足感に浸りながらベッドに入って熟睡した。

